

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレット12頁 —

3 比爪-奥州藤原氏第二の拠点- ② 周縁遺跡

比爪中核部（比爪館、小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡）のやや離れた地点にも関連遺跡が所在します。これらの遺跡も、中核部と密接な関係と機能を有する比爪の構成要素と位置付けられます。

《下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡（紫波町南日詰下川原）》

下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡は、比爪館から約2km南東方向の北上川の川岸付近に位置します。平成19と20年に発掘調査がおこなわれ、12世紀の遺構、遺物がまとまった量見つかっています。遺跡の広がりを確認する遺跡試掘調査の結果からは、下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡の12世紀の遺跡の広がり、比爪館とその東部の小路口Ⅰ・Ⅱ遺跡の広がり（比爪中核部）とは連続しないことが確認されています。下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡は、比爪中核部とは近接した位置関係ですが、独自のまとまりを有する遺跡と理解されます。

《《《 10～11月行事予定のお知らせ 》》》

10月19日 (水曜日)	第76回月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：平井和夫 テーマ：吾妻鏡にみる奥州平泉6 発表者：石幡 信 テーマ：気仙沼の佐藤一族
11月16日	第77回月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：(未定) テーマ：(未定)

羽柴直人さんと巡るツアー 沿岸地域比爪館関連遺跡現地研修〔速報〕

9月18日から1泊2日の研修旅行は16名(男7、女9)の参加者で実施、多くの成果を得た。最初の釜石市郷土資料館では、川原遺跡担当の高橋調査員さんが案内。館内展示品のほか、特に用意してくれた青・白磁や鉄製品などの出土品についての説明を受ける。川原遺跡は、既に復興工事の盛土の下で、ダンプが行き交う場所でバスからの現地確認となった。

大槌町の仮設商店街「福幸きらり」で4ヶ所に分散して昼食休憩。午後は羽柴さんが担当している迫田Ⅰ遺跡へ。バスを降りて靴を履き替え山の中の現場で実地研修。羽柴さんは間もなく直ぐ近く館跡の調査に入るようだが、より相応しい別の仕事があるのと思った。

続いて大槌公園(県指定史跡大槌城跡)に向う。町教委で手配してくれた中央公民館の駐車場を見落とし?一気に頂上へ。小さなバスが幸いした。大槌湾を見下ろしながら羽柴さんの解説を聞き、当時は大槌が地理的に非常に重要な地点であったことを実感する。

その後、震災被害の象徴ともいえる旧役場庁舎を車中から見て、赤浜遺跡Ⅱに向ったものの復興工事で変わり様が大きく、遺跡の場所を確認できず山道を辿って吉里吉里に出る。途中から地元の方の軽トラで誘導され「風の電話」に立ち寄り、3時ごろ民宿さんずろ家に到着。部屋から眼下に広がる海の眺めを堪能し、ゆっくり休んだ後の懇親会は薄紫さん小紫さんの講談で開幕。いつものように橋場さんを囲んだ話に花が咲き10時近くに閉会。

翌日は朝食後の時間を持って余し予定を早めて出発。9時ごろには今回のメインである宮古市田鎖車堂前遺跡に到着。現場事務所前で30人ほどの作業員さんと一緒に朝のラジオ体操。現場責任者の福島調査員さんから、発掘調査中の現場を案内しながら詳しい説明を受け、参加者も積極的に質問を連発。事務所前では、平泉三点セットや鉄製品などの説明と質疑もあり、予期以上に充実した内容の研修となった。2時間半に亘って熱心に対応してくださった福島さん。その使命感に満ち信念をもって取組む真摯な姿に感動し心から感謝の意を捧げた。

浄土が浜レストハウスで昼食休憩を取り、浜辺を散策ながら津波の高さを体感。最後に崎山貝塚縄文の森ミュージアム複合施設で、文化課長さんから総工費12億円の話聞き博物館内を見学。帰りには、魚菜市场と道の駅でお土産を買い全員無事に研修旅行を終えることができた。

※ ※ ※ 比爪館跡の発掘調査 No.34 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ〔比爪館遺跡第25次〕 <紫波町教育委員会(平成16年3月31日発行)>

※ 前号と順序が逆になりました。

1 比爪館遺跡有無確認調査

調査日時 平成15年5月9日～同年5月14日 対象面積 19.9㎡

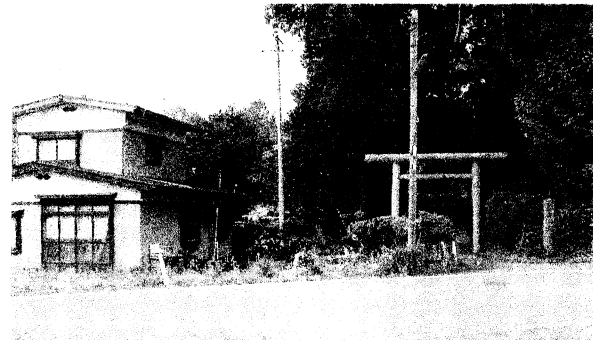
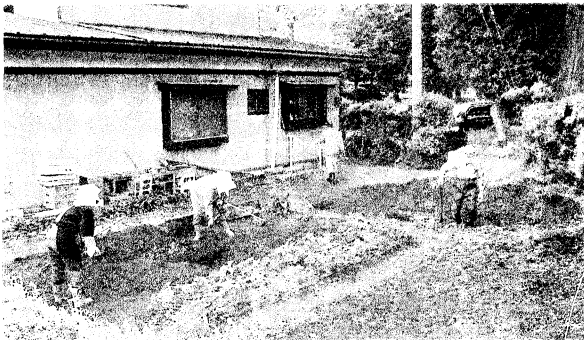
調査経過 物置建設計画に伴う確認調査を実施したところ、若干の遺構が検出された。原因者と再協議を持ち、精査後記録保存としたが、掘削が地山面よりあまり下がらないこと、掘削面積が小さいことなどから、建築物の基礎部分を中心とした部分調査にとどめた。

調査場所 紫波町南日詰字箱清水190-2 (北緯39° 34' 40"、東経141° 10' 13")

検出遺構 竪穴遺構1棟、土坑1基、小柱穴2基

出土遺物 縄文時代石斧片、平安時代土師器片、平泉藤原氏時代(比爪館期)のかわらけ片、近～現代の磁器片

いずれも小片であり点数も少なく、今調査区から遺跡の性格を判断することは困難である。本調査区の比爪館期に関しては、館遺跡の中心域からはずれていると言うことはできる。



平成28年度第2回会員研修旅行 楽しく充実した一日となりました！

※ アンダーラインは、町指定文化財

8月28日(日)の西部地域お寺・神社・経塚めぐりは、参加者12名が自家用車2台に分乗して実施しました。見学場所14か所の強行スケジュールでしたが、皆で協力し合って日程どおりに進行することができ、さらに二ヶ所見学のオマケつきの充実した研修となりました。

■宝珠山黄金堂：別当様が仕事の都合で不在でしたが、予めお許しをいただいていたので、お堂の中に入り護摩壇の前から参拝。 ■憶念山稱名寺：ご住職様から創立当時の経緯や尼宮様(信州善光寺一条智栄上人)による授戒会などのお話をお聞きし、ご本尊の木像阿弥陀如来立像を拝観。 ■蓬萊山隠里寺：ご住職様所用により不在となるため、その場でお許しをいただき本堂に上って参拝。その後、境内のシラカシを見学。

■長亀山願圓寺：ご住職様からお寺の由来などのお話をお聞きし、寺宝の聖徳太子十六歳の木像等を拝観。シダレザクラ・モウソウダケの群落・安倍道跡を見学。 ■金田石卒都婆群：熊野神社境内(金田館内)に所在する紫波町内の三大石卒都婆群の一つで、十二基ある板碑の所在を確認。 ■新山神社里宮：浦田総代様が、各時代における新山神社についてお話しをされ、所有する県・町指定文化財や奥宮周辺の藩境塚などについても写真等を示して詳しく解説。

～～～ 新山展望台に上って涼しい風を受けながら各自持参の昼食タイム ～～～

■土館新山寺跡／新山神社奥宮：本殿が現存。拝殿は老朽化により最近解体し礎石のみ残存。藩境塚は藪の中で行けず、常滑三筋壺の発見場所とともに図面で位置を推定。

■土館源勝寺跡：源勝寺館跡(寺館跡)との関係を再確認する必要があると思われた。願圓寺前よりも、ここの安倍道跡がより原形を残していると思われるが、行くまでの道路状態が極めて悪い。 ■弥勒地経塚：数百米先で車をUターン。車道からの藪こぎは思ったより難儀でなかった。落葉も多くななく県博調査当時の状態が、ほぼ保たれている。

■志和稲荷神社：瀬宜様の解説を受けながら志和稲荷内宮殿を拝観。志和稲荷の大スギ群の中でも、最大の古木である御神木まで案内していただく。 ■古稲荷神社：昭和29年の台風15号で御神木の杉が倒伏。その根元の空洞の土中から出現した狐のミイラを祀った御眷属社を拝観。

■水分神社：境内のスギ群は、冷泉を湧出する神域に荘重な空間を醸し出していた。皆で美味しい水を飲み、ペットボトルに汲んでお土産に。 ■高木山光圓寺：群生する白い大輪の蓮の花は予想どおり終わっていた。本堂脇のシダレアカマツを観賞。

帰途、水張り中の日の輪月の輪形と、白い蓮の群生する一町歩堤も見学して、全員無事帰着。